

Go-Ahead

1

令和 2 年度（2020 年度） 10 年経験者研修 開講にあたって （中堅教諭等資質向上研修）

<http://toyono-jinikyoo.com/>

今年度豊能地区では、小学校教諭 89 名、中学校教諭 57 名、養護教諭 2 名、合わせて 148 名の先生方が 10 年経験者研修を受講されます。

近年教員の年齢構成の不均衡、学校教育における諸課題等、学校を取り巻く環境の変化に対して、法定研修の在り方の見直しが求められています。そのような状況の中、豊能地区では、「子どもとともに学び続ける教職員」をめざす教職員像とし、法定研修を実施しています。

第 1 回は、新型コロナウイルス感染症等の予防のため、動画による研修となりました。豊能地区の法定研修【共通研修】では、研修から学んだことや考えたことをどのように自校の取組みにつなげていくか小グループで話し合う等、互いに交流することを大切にしています。直接意見を交わすことができない状況が続きますが、通信“Go-Ahead”を通じて研修を振り返り、学びを深め、広げるきっかけにさせていただけたらと思います。

研修では、兵庫教育大学大学院、浅野良一教授に「学校組織マネジメント」をテーマに、演習を交えてご講義いただきました。教員 10 年目がどのような時期であるか、キャリアステージについてお話いただき、SWOT 分析では、自校を多面的に捉え直し、マイナス面も、見方をかえればプラス面になることに気づく等、演習を通じて学校組織を構築していく上で大切な要素について学びました。

組織を変革していく上で、力の入れどころはどこか、どのように意思統一すればよいか、現在学校内外で、さまざまな役割を担う先生方にとって、重要な観点を整理できたのではないのでしょうか。

～ 振り返りシートより ～

この研修を受けながら、まず感じたことは今までの 9 年間で歩んできた道や積んできたキャリア、経験は、目には見えないけれどもとても貴重なものであるということです。そして、その経験を積むにあたり、たくさんの方々に支援していただき、今の自分があるということも感じました。今年で 10 年目を迎え、中期キャリアを登っていきます。これからは、今まで自分が積んできた知識や経験をさらに深め、それらを組織の中で活用していきたいと思います。また、経験の浅い教員にとってのメンターになれるよう、学級経営や教科指導などさまざまな面で努力をしていきたいと思います。

学校のビジョンづくりでは、生徒、保護者、地域、教員にとっての使命をよく考えることが大事だということを感じました。特に本校では、生徒数が多い分、学校に関わってくださる保護者や地域の方々も多く、いろいろな考えや意見があります。だからこそ、本校の「強み」を活かし、「めざす姿」や「ベクトル」を教員の共通理解としてミドルの我々が広げていかなければならないのだと感じました。

SWOT 分析では、前述した学校の「強み」を考えるきっかけとなりました。これを経験するとき意識したことは、学校を様々な角度から見ることです。授業のみならず、行事、施設、地域や保護者との関わりなど、いろいろな面から学校を捉えてみると、本校の強みがたくさん見えてきました。今あるものを活かし、たくさんの人の意見を取り入れ、発展させていくことの大切さを感じました。

教員としての経験を積むごとに、キャリアを積んだ教員の役割とは何なのかということは考えていました。また、初任者のときに感じていた中堅教員以上の先生方がどういった使命感を感じて仕事に向き合っていたのかも考えていました。今回の講義では、それらを考える際に感じていた漠然とした不安のような、モヤモヤとした感覚が消え、頭の中がクリアになりました。中堅教員に求められる役割が理解でき、自身のこれからの道筋が見えてきたように思います。それと同時に、今の自分ではまだまだ力不足であるのも事実であり、これからより研鑽に励まなければならないとも感じました。特に中堅教員に求められる専門性（強み）という部分では、現状の自分の中には明確なものがなく、また組織に還元できるようなものはあまりないように思います。ただ、今後 10 年のキャリア充実をめざした方向性は見えてきました。

学校ビジョンの構成、学校の組織づくりのどちらにおいても「強みに目を向ける」「組織として同じ方向に進む」といった前向きな姿勢が重要であることに気づき勇気づけられた思いです。本校は良い形のワイガヤ職場であると感じています。それも一つの強みであり、その強みをさらに強化させ、その強みを活かし、スピーディーで創造的問題解決に優れた組織にできるよう尽力できればと思います。

今回の研修を通じて、あらためて自分がミドルリーダーとしてできることや、やるべき役割というもの
を再認識することができました。今までも場面場面では、若手教員を指導したり、学校全体としての役割
を果たしたりするケースなどにはありましたが、明確にビジョンを持った形で行っていた訳ではなかったと
思います。

「学校のビジョンづくり」の中では、めざす学校像を多面的に描いた上で、重点項目をしぼり、強みを
活かして取り組む重要性に気づきました。特に教師や生徒、保護者に対しての視点については考えること
が多かったように思いますが、もっと地域にとっての視点を取り入れた形でビジョンを構築していかなけ
ればならないと感じました。学校の特色を出していくことに関しても、オリジナルにこだわるのではなく、
学校の強みを意識した上で取り組むものだという事にも勉強になりました。

特色作りにおいて、「学校の内外環境の分析」の中での、SWOT分析の手法がとても参考になりました。
この分析手法を知り、今までは漠然としか自校の事をとらえていないことがよくわかりました。この手
法で客観的・系統的に自校の強みと弱みをしっかりと認識した上で、プラスを活かし、伸ばしていく形で
様々なことに取り組んで行かなければならないと思いました。

最後にこの研修を通して、ミドルリーダーとしての自分の役割がより明確になったと思います。今まで
学校全体や学年間などであまりうまくいっていない時に、個別に周りに働きかけることはありましたが、
今回の研修のような視点でとらえることができているませんでした。学校全体・教員全体のベクトルを合わ
せて取り組む必要性を感じながらも具体的な方策に迷うこともありましたので、分析方法や、視点を多角
的にもった上で、学校の中核として様々な場面で影響力を発揮していきたいと思えます。

中堅教員としての立場について、考える機会となりました。今までは経験の豊かな教職員に教えていた
だくことが多かったですが、今後は後輩の指導、育成も担っていく必要があると感じています。また、学
校運営にも積極的に参加し、よりよい学校づくりについて学び広げていく役割を担っていくことが重要で
あることがわかりました。

特に、専門領域の選択・開発の重要性を感じました。小学校教諭は教科のプロフェッショナルというよ
りも、オールマイティーであることが大切だと思ってきましたが、自分の専門領域を選択し、深く学ぶこ
とで、自分の強みができることと学びました。また、専門領域の知識や理解を深めることで、他教科へのつな
がりにも気づき、結果的に様々な教科に活かすことができる教科横断的な指導ができると気づきました。
今後は自分の強みを磨き、学習指導に活かしていきたい。そして、自分が習得したことを広く教職員で共
有していきたいと思えました。

振り返りシートには、次の
世代へとバトンをつなぐ、
その一人であることを先
輩の姿を通して気づき、今
後へ向けて、新たな気持ち
を書かれている先生方も
多くいました。

今回の講義は、本校の職員室の様子と重ねて聞くことができ、10年研修
を終えられた先生方がミドルリーダーとして担ってくださっていることや活
躍されている内容を具体的に実感することができました。これからそうい
った先生方に続いて自分がその役割を担っていけるように力をつけていき
たいです。すべてを真似することは難しいので、自分自身の個性や強みを見つ
けて、組織づくりの力になっていきたいと思えました。

今回の研修を受講するにあたって、特に意識することは、「視野を広げ、学校全体を意識する」ことだと感
じました。今までは自分の教科やクラスのことなど、自分の領域にばかり目がいき、どれだけの支えがあ
って、日常が成り立っているかなどを、深く考えることがありませんでした。今回の10年研修を通
して、その点を強く意識していきたいです。

また、自分が得た知識や技能を若い教員に指導したり、助言したりすることも心がけていきたい。今
まで、自分が指導して頂いた分を、発信できるようになりたいと思えました。

全5回の法定研修【共通研修】は、豊能地区の教育を担う先生方への願いや期待を形にしたものです。必
ずしも日々の実践に直結する内容ではないかもしれませんが、それぞれの研修が先生方のこれからのキャ
リアに役立つ研修であってほしいと願っています。



相互交流研修を豊能地区教職員人事協議会のホームページに掲載
しています。教職員研修のページをチェックしてください。

→ 申し込みは、各市町教育委員会(教育センター)へ